

# 稲作情報

Vol.3 平成28年6月21日

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部

問い合わせ先：本吉農業改良普及センター

TEL：0226-29-6044

HP：<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/motoyosinoukai.html>



6月13日に梅雨入り。生育は順調に推移しています。

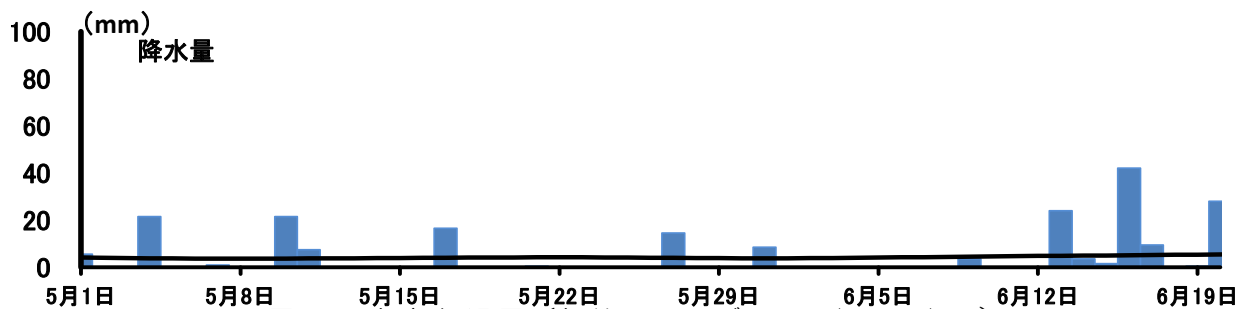
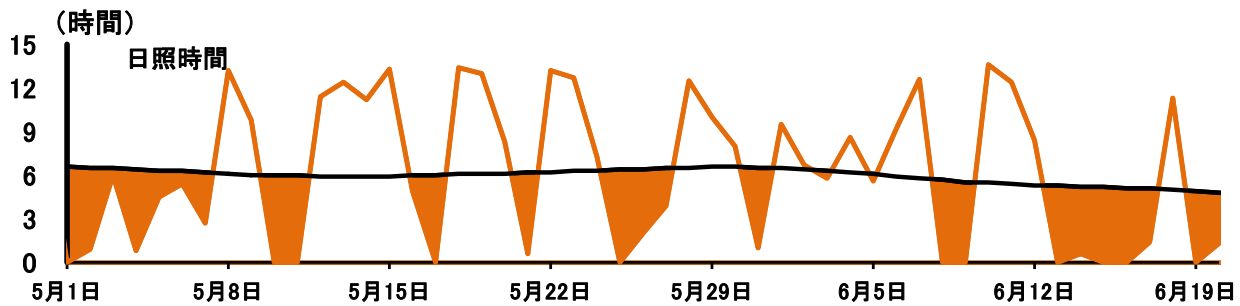
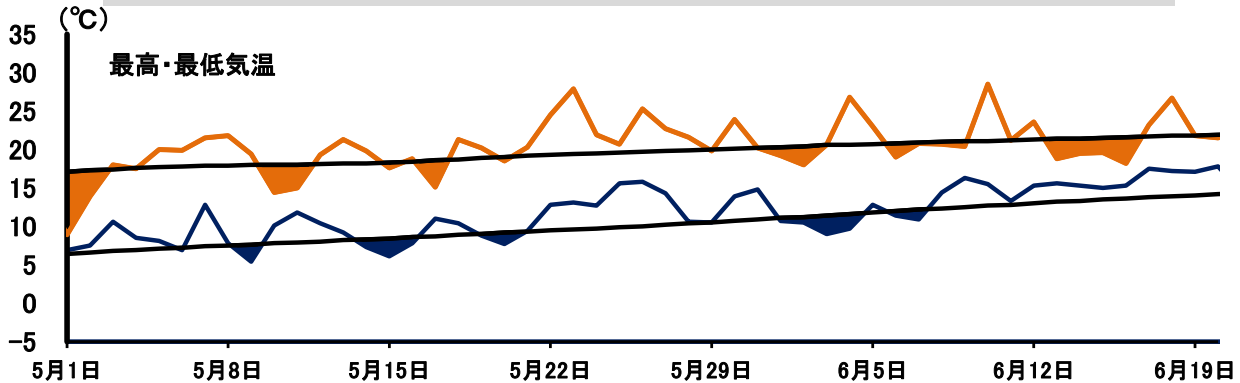


図1 気象経過図（気仙沼アメダス：5/1～6/20）

## 気象経過 6月上旬は多照少雨，中旬は少照多雨傾向

- ・気温は、6月になってからは平年並からやや高く推移しました。
- ・日照時間は、6月上旬は平年を上回り，中旬は平年を下回りました。
- ・降水量は、6月上旬は平年をかなり下回り，中旬は平年を上回りました。

表1 半月別気象表（気仙沼アメダス）

	平均気温(°C)			最高気温(°C)			最低気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	差	H28	平年	比	H28	平年	比
5月5半旬	17.5	14.2	3.3	23.1	19.4	3.7	12.7	9.6	3.1	33.8	31.4	108%	0.5	20.8	2%
5月6半旬	17.3	14.9	2.4	22.3	20.0	2.3	13.3	10.5	2.8	37.4	39.1	96%	23.0	23.4	98%
6月1半旬	15.6	15.7	0.0	21.5	20.5	1.0	10.5	11.4	-0.9	36.2	31.5	115%	0.0	19.7	0%
6月2半旬	17.5	16.3	1.2	21.9	21.0	0.9	13.7	12.3	1.4	35.4	28.4	125%	3.5	22.0	16%
6月3半旬	17.5	16.8	0.6	20.5	21.4	-0.8	14.9	13.2	1.7	21.4	26.4	81%	29.0	24.4	119%
6月4半旬	19.3	17.4	1.9	22.3	21.8	0.5	17.0	13.9	3.1	14.0	24.9	56%	80.0	26.3	304%

## 生育経過

- ・気仙沼市の調査ほ（ひとめぼれ）では、平年と比較して草丈は平年並、茎数は少なく、葉数は多く、葉色は平年並となっています。茎数は、平年より少ないものの前回の約2倍に増えており、生育は順調です。
- ・南三陸町の調査ほ（ササニシキ）では、平年と比較して草丈はほぼ平年並、茎数はやや多く、葉数はやや多く、葉色は濃くなっています。茎数は、必要茎数（約450本/m<sup>2</sup>）を確保しました。
- ・両生育ほとも、生育の傾向は前回とほぼ同様で、平年よりやや進んでいます。
- ・管内の水稻はおおむね順調に生育しており、必要茎数を確保したほ場も見受けられます。必要茎数を確保した水田は中干しを行い、無効分げつの発生を抑えましょう。

表2 生育調査結果

調査地点名 品種名 (田植日)		6月10日調査				6月20日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 SPAD値
生育調査ほ	平成28年	24.7	154	7.2	38.4	30.9	311	9.0	42.2
	前年	24.4	205	7.1	34.7	32.2	426	8.6	43.7
	平年	23.4	240	6.3	36.6	31.6	478	7.8	41.5
気仙沼市本吉 ひとめぼれ (5月15日)	前年比(差)	101%	75%	0.1	111%	96%	73%	0.4	97%
	平年比(差)	106%	64%	0.9	105%	98%	65%	1.2	102%
生育調査ほ	平成28年	26.0	228	6.6	40.2	34.8	467	8.4	45.9
	前年	27.2	253	7.0	37.5	36.5	553	8.8	40.7
	平年	26.5	215	6.1	34.3	33.1	430	7.8	40.1
南三陸町入谷 ササニシキ (5月13日)	前年比(差)	96%	90%	-0.4	107%	95%	85%	-0.4	113%
	平年比(差)	98%	106%	0.5	117%	105%	109%	0.6	114%

注: 平年値は過去5カ年(平23~27年)の平均値

## 2) 土壌改良プログラム

「土壌改良プログラム」とは？

客土した復旧農地で、地力不足を緩効性肥料と追肥で補い、たい肥で土づくりを行うことにより、収量を確保しながら5カ年で通常の地力に戻すプログラム。

土壌改良プログラムの実証ほは、今年で農地復旧後3年目です。

前回調査に引き続き、両区とも前年より旺盛な生育です。実証区、参考区の差はほとんどありません。

両区とも、管内の一般的な移植水稻と変わらない稲姿となってきました。3年目にしてようやく、たい肥連用による土壌窒素発現効果が出てきたようです。

表3 復旧農地の生育調査結果

調査地点名 (田植日)	区名		6月10日調査			6月20日調査		
			草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉色 (SPAD値)
土壌改良プログラム実証ほ	実証区 (たい肥3t)	平成28年	26.8	※※261	38.8	34.5	390	44
		前年	22.2	135	26.8	27.5	281	40.8
		前年比(差)	109%	173%	-	125%	139%	108%
南三陸町歌津 (5月13日)	参考区 (たい肥3t)	平成28年	27.8	165	39.1	35.1	395	43.6
		前年	23.3	148	24.4	27.7	276	42
		前年比(差)	109%	172%	-	127%	143%	104%

※土壌改良プログラム実証ほの基肥は、両区とも「てまいらず」42kg/10a。

※品種はすべて「ひとめぼれ」。苗はJA南三陸歌津育苗センターから手配。

※参考区は、過去2年間たい肥0.6t散布し、今年はいたい肥3t散布した。

※※調査データに見直しをかけ、訂正しました。

管内では、今年いくつかのほ場整備地区で水稲作付けが再開され、全ての工区で土壌改良プログラムに基づいた土壌改良資材、基肥が散布されています。鉄コーティング直播に挑戦した工区もあり、移植ともども順調に生育しています。一部の直播ほ場で、鳥害による出芽率低下が見られました。

### 3) 鉄コーティング直播

直播展示ほは、茎数が前回の倍以上となり、生育の良かった前年よりもさらに旺盛な生育となっています。これは、播種後好天に恵まれ出芽揃いが良かったこと、浅水管理により分けつの発生が促進されたためと推測されます。

表4 直播展示ほの生育調査結果

調査地点名 (は種日)		6月10日調査			6月20日調査			
		草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	草丈 (cm)	茎数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (枚)	葉色 (SPAD値)
直播展示ほ	平成28年	16.4	121	3.9	23.0	279	6.2	41.3
気仙沼市本吉町	前年	11.0	108	4.1	21.6	206	6.8	41.7
(5月18日)	前年比(差)	149%	112%	-0.2	106%	135%	-0.6	99%

※鉄コーティング直播栽培4年目。品種は「ひとめぼれ」。

## 今後の技術対策 必要茎数を確保したら中干しの実施を

### ◎水管理

- 稲わらをすき込んだ水田や排水不良田では、気温の上昇と共に地温や水温が上がり、土壌の還元が進んで有害なガスの発生が多くなり根の活力を低下させます。このような水田では、ガス抜きと土壌中への酸素供給を兼ねて間断かん水を行ってください。
- 分けつの発生が進んでいないほ場では、引き続き浅水(2~3cm)で管理し、分けつの発生を促進して下さい。
- 必要茎数(450本/m<sup>2</sup>が目安、1株当たりでは22~23本程度)が確保されたら、中干しを実施し過剰分けつの抑制および根の健全化をはかりましょう。中干しは、土の表面に亀裂が入り軽く足跡がつく程度とし、期間は7~10日間程度が目安です。水はけの悪い水田では、溝切りを行うと中干しの効果が高まります。

### ◎雑草防除

- 雑草が残っている場合は、中・後期剤を散布し防除しましょう。必ず雑草の種類や草丈・葉齢を確認してから、適切な薬剤を選んでください。また、農薬ラベルに記載された使用時期および使用方法に注意し、散布適期から遅れないように散布してください。

### ◎病害虫防除

#### 《葉いもち》

- 病害虫防除所の発生予報第4号(6月7日発表)によると、葉いもちの発生開始時期は平年並(7月1半旬)、発生量も平年並と予報されています。
- (イ) まだ残苗が放置されているほ場がみられます。残苗は本田でのいもち病の発生源になるので、速やかに処分してください。
  - (ロ) 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、各種水面施用剤をそれぞれの防除適期に散布してください(田植え時期を遅らせたところでも適期に散布してください)。
  - (ハ) 箱施用剤による予防防除を行った場合でも、発病がみられたときには茎葉散布剤で速やかに防除してください。
  - (ニ) 過去2年連続して、県内では、QoI剤(嵐剤)耐性菌の発生が確認され

ています。嵐剤を使用してもいもち病の発生が早い段階で確認された場合は、農業改良普及センターまで御相談願います。

- (木) 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。病勢が進展してからの防除では十分な効果が期待できないので、水田をこまめに見回り、早期発見・早期防除に努めてください。

### ～防除上の注意～

- 粒剤を散布する場合、水田水深を3cm以上にし、それぞれ薬剤の湛水期間を守ってください。
- パック剤は、3～5cmの湛水状態で均等に投げ込んでください。藻類や浮き草で拡散が阻害される場合は、粒剤等で対応してください。
- 茎葉散布剤を使用する場合は、耐性菌の出現や増加を避けるため、同一系統薬剤の連続使用や多数回散布は行わないでください。
- 茎葉散布には粉剤や液剤がありますが、周辺環境等への飛散に気をつけて下さい。また、剤の選定は飛散が少ないDL粉剤を選定するなどして下さい。

### 《斑点米カメムシ類》

- 斑点米カメムシ類は、イネ科植物を好み、普段はイネ科植物が生えている雑草地や農道の法面、牧草地等に生息していますが、夏枯れや草刈り等で餌となるイネ科植物が無くなると水田等他の場所に移動します。飛翔能力が高く、移動距離が大きいことも特徴です。
- 宮城県における斑点米カメムシ類の主要種は、アカスジカスミカメです。以下に、アカスジカスミカメの生態を紹介します。

## アカスジカスミカメ

## 成虫が水田に飛来して加害

越冬形態：卵

増殖場所：畦畔や水田周辺のイネ科牧草・雑草地

侵入時期：出穂期

加害時期：開花期と登熟初期

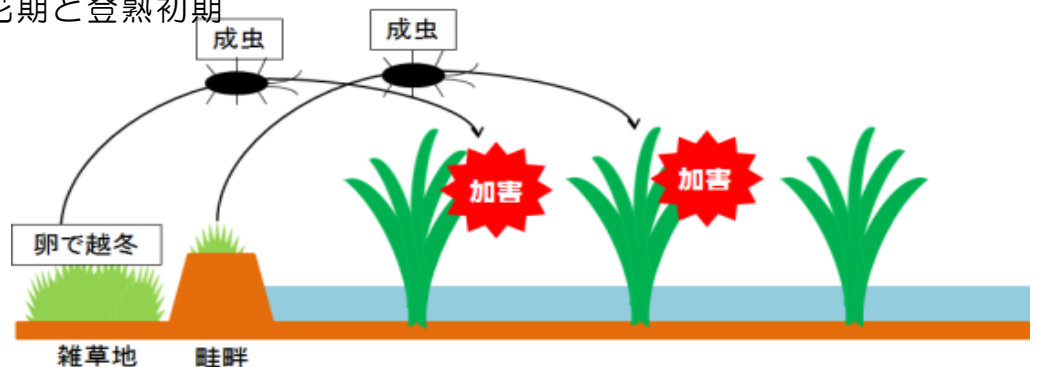


図2 アカスジカスミカメの加害パターン

### 斑点米カメムシ類の防除対策

#### ～耕種的防除（雑草管理）～

- 斑点米カメムシ類は、イネ科やカヤツリグサ科雑草の穂で増殖します。畦畔や雑草地は、雑草の出穂前に刈り取るよう努めてください。草刈りは、地域で一斉に行うと効果が上がります。
- 草刈りは出穂10日前（7月下旬）までに終わらせましょう。それ以降の草刈りは、カメムシ類を水田内に追いやることになります。
- 水田内のイヌホタルイ、シズイやヒエ等の残草は、水稻の出穂前から穂を付け、その穂をカメムシ類は餌及び産卵場所とするため、カメムシ類の水田への侵入および斑点米被害を助長します。後期除草剤等により確実に除草してください。

## ～薬剤防除～

- 穂揃期とそれから7～10日後の2回防除が基本です。
- イヌホタルイが発生した水田で除草が間に合わない場合は、一回目の薬剤散布時期を早めて「出穂始期～穂揃期」にすることで、斑点米カメムシ類の密度を低下させ、斑点米の発生を軽減できます。

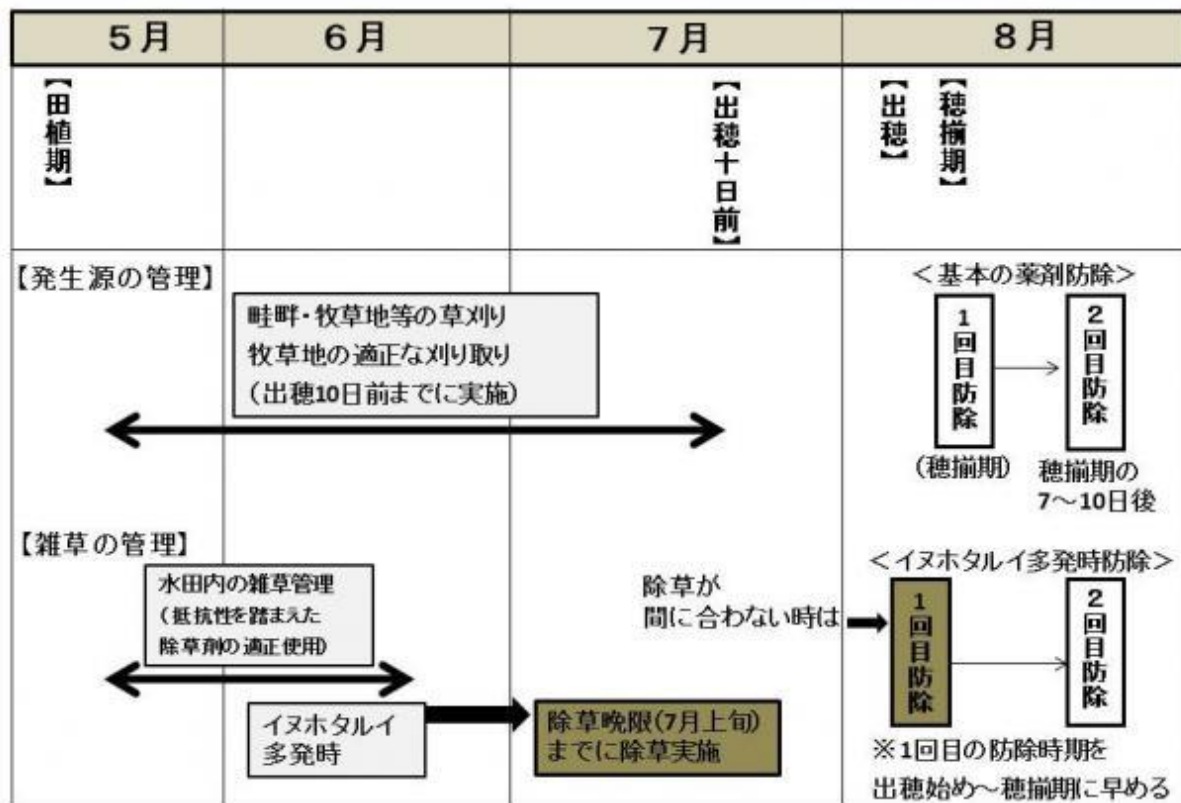


図3 斑点米カメムシ類の防除体系

## 農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月6日～8月5日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。

農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。